肱川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨

肱川流域は、愛媛県一の大河川である肱川をはじめ、474 本もの支川やダム湖、水田、生物多様性の観点から重要度の高い湿地に選定された農業用水等を含み、多様な水辺環境を有しています。また、肱川の周辺地域を含めて、鳥類や水生生物をはじめとした数多くの生物の生息環境となっており、肱川流域の自然と歴史が育んできた大切な財産です。

近年、国土形成計画や社会資本整備重点計画等を踏まえ、強靱で持続可能な国土の形成に資する取組として生態系ネットワークの形成が掲げられ、生態系の広域的なつながりを示す様々な生物を指標とした水辺環境の保全・再生や、その成果を活かした観光や農業等の分野での地域振興の取組が、全国各地で進められています。

肱川流域においても、飛来や越冬が確認されているコウノトリやツル類、ブッポウソウやオシドリといった鳥類や、三大鵜飼いのひとつである「大洲の観光鵜飼い」の漁獲対象であるアユといった多様な野生生物の生息環境を、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの考えなども適用して確保しつつ、地域振興の取組に活かしていくことが期待されています。

こうした背景を受けて、多様な主体の連携と協働による肱川流域における生態系ネットワーク形成の取組を通じて、希少な野生生物と地域社会との共存を図り、にぎわいのある地域活性化及び経済振興の実現を図るための取り組みの検討と推進を目的として、「肱川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立します。